

日本における国内人口移動の軌跡とその出生コホート別の差異

Internal migration trajectories and their differences based on birth cohorts in Japan

小坪将輝* (東北大学・院)・中谷友樹・田淵貴大 (東北大学)

Masaki KOTSUBO (Graduate student, Tohoku University),

Tomoki NAKAYA, Takahiro TABUCHI (Tohoku University)

*masaki.kotsubo.s3@dc.tohoku.ac.jp

多くの先進国における国内人口移動の減少の要因として、高齢化などの構造的な要因 (Green, 2018) に加えて、個人の移動行動の変化が指摘されている (Coulter, 2023)。オーストラリアでは移動を減少させる構造的な要因 (高齢化や共働き世帯の増加) と移動を増加させる構造的な要因 (高学歴化や単身世帯の増加) の効果が打ち消しあっており、移動の減少に対する個人の移動行動の変化の寄与が指摘されている (Kalemba et al. 2021)。また、人口移動スケジュールの差異として、アメリカ合衆国では、より最近の出生コホートほど移動率が低い傾向にあることが報告されている (Bozick 2021)。しかし、移動行動の変化に関する研究蓄積は乏しく、日本の国内人口移動の減少との関連も明らかにされてはこなかった。

そこで本研究では、日本における個人の移動軌跡の分類とその出生コホート別の構成変化に基づいて、移動行動の変化と日本における国内人口移動の減少 (Fielding 2018) との関連を議論する。資料として、居住履歴の調査項目を含む JASTIS2022 年調査 (2022 年 2 月実施) の結果を利用した (Tabuchi et al. 2019)。サンプルは 46 歳以上に限定し、大都市圏出身者とそれ以外の地方出身者に層別化した。5 時点 (15 歳、25 歳、35 歳、45 歳、および調査時) の居住地 (都道府県) 系列を用いて移動軌跡を定義した。具体的には 15 歳時の居住地を出身地、それ以外の地域を大都市圏または地方の 2 つに区別し、居住経験に基づきカテゴリ化した。例として、5 時点の居住地が”宮城-東京-千葉-東京-宮城”であれば、軌跡は”出身地-大都市圏 1-大都市圏 2-大都市圏 1-出身地”となる。出身地の大都市・地方別に移動軌跡に系列解析を適用し移動軌跡の類型を作成して、出生コホート別の類型構成の変化を得た。

結果として、大都市圏出身者と地方出身者の両方でより最近の出生コホートほど非移動者類型 (5 時点の居住地が同一) の割合が高い傾向にあることが確認された。これは日本における人口移動の減少が高齢化などの構造的な要因によるもの (Fielding 2018) だけでなく、移動行動の変化が寄与していることを示唆している。そのほかの移動軌跡の類型やそれらの出生コホート別の差異については当日報告する。

参考文献

Bozick, R. (2021). “Age, period, and cohort effects contributing to the Great American Migration Slowdown”, *Demographic Research*, 45, pp.1269-1296.; Coulter, R. (2023). “Are younger adults becoming less residentially mobile? A decomposition analysis of British trends, 1997–2019”, *Population, Space and Place*, e2703.; Fielding, T. (2018). “Japan: Internal migration trends and processes since the 1950s”, Champion, T., Cooke, T. & Shuttleworth, I. eds., *Internal migration in the developed world: Are we becoming less mobile?* Routledge, pp.173-202.; Green, A. (2018). “Understanding the drivers of internal migration”, Champion, T., Cooke, T. & Shuttleworth, I. eds., *Internal migration in the developed world: Are we becoming less mobile?* Routledge, pp.31-55.; Kalemba, S. V., Bernard, A., Charles-Edwards, E., & Corcoran, J. (2021). “Decline in internal migration levels in Australia: Compositional or behavioural effect?” *Population Space and Place*, 27-7, e2341.; Tabuchi, T., Shinozaki, T., Kunugita, N., Nakamura, M., & Tsuji, I. (2019). “Study profile: the Japan “society and new tobacco” internet survey (JASTIS): a longitudinal internet cohort study of heat-not-burn tobacco products, electronic cigarettes, and conventional tobacco products in Japan”, *Journal of Epidemiology*, 29-11, pp.444-450.